

問290～291

68歳男性。30歳時に結核、52歳時に脂質異常症を指摘され、ロスバスタチンを内服中である。2年前に急性心筋梗塞を発症し、その際に出現した心室頻拍と心室細動に対してアミオダロンによる治療が開始され、その後症状は安定していた。本日、呼吸困難のため緊急入院となった。3ヶ月前から食欲がなく、息切れを自覚していた。入院時に発熱はなく、主な検査値は以下のとおりで、白血球数が増加、CRP、LDHが高値を示していた。

(検査値)

血圧 102/65mmHg、心拍数 100 拍/分、SpO<sub>2</sub> 93%、  
Hb 12.7g/dL、白血球数 10,600/μL、AST 26IU/L、ALT 21IU/L、  
LDH 184IU/L、eGFR 56.3mL/min/1.73 m<sup>2</sup>、CRP 14.3mg/dL、  
QTF (クオンティフェロン) 陰性、モニター心電図で異常所見なし

問290 (病態・薬物治療)

この患者の病態として、可能性が高いのはどれか。2つ選べ。

- 1 胸部聴診所見で、水泡音が聴取される。
- 2 血液検査で、シアル化糖鎖抗原KL-6の値が高値を示す。
- 3 動脈血液ガス検査で、高炭酸ガス血症を伴う。
- 4 CTにて、両側肺に広範囲のすりガラス陰影を認める。
- 5 肺機能検査で、%VCは変化せず、FEV<sub>1.0</sub>%が低下している。

問291 (実務)

この患者への対応として、適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 アミオダロンを中止する。
- 2 ステロイドパルス療法を実施する。
- 3 ステロイド吸入療法を実施する。
- 4 人工呼吸器を装着する。
- 5 リファンピシンを投与する。

<解答> 2、4 (問290)

<解答> 1、2 (問291)

横断的なアプローチ(病態と実務をつなげる)

近年の国試では、検査値や症候から疾患を推測し、解答を導く問題が増加しています。そのため、各疾患に特徴的な検査所見や症状を理解しておくことはとても重要です。特に、**薬剤により生じる副作用について、現場で遭遇する可能性が高いものに関しては、特徴的な所見やその対処法に関して理解しましょう。**

勉強法としては、実務などで副作用に触れた際に、副作用として発現した疾患がどのような疾患なのかを病態で学修し、その対処に用いられる薬物の薬理作用を薬理学で学修するなど、つながりをもって考えることができるようにしましょう。

実践問題での出題例(法規・制度・倫理と実務をつなげる)

■第106回薬剤師国家試験 問322～323

法規・制度にのっとった上で実務があり、実務上の必要性の変化から法規・

制度が改正されるという流れが従来から繰り返されてきました。近年の国試では、法規と実務の壁はなくなりつつあり、「法規の知識で解く実務」や「実務の知識で解く法規」の出題があります。

本問は、「**実務の知識で解く法規**」の問題であり、法規と実務の壁を考えずに薬剤師として必要な知識をもってアプローチする必要があります。

問322～323

58歳男性。不眠のため心療内科を受診し、以下の処方箋を持って保険薬局を訪れた。薬剤師がゾルピデム錠の添付文書を確認したところ、ゾルピデム錠は向精神薬であり、医療保険制度上、30日の処方日数の上限があることが判明した。

(処方)

ゾルピデム錠 1回1錠 (1日1錠)  
1日1回 就寝前 60日分

問322 (実務)

今回のゾルピデム錠の処方に関し、薬剤師の対応として適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 60日処方可能な睡眠薬に変更できないか疑義照会した。
- 2 医師に疑義照会せずそのまま調剤した。
- 3 30日分に処方変更するよう疑義照会した。
- 4 分割調剤して30日分だけ交付した。
- 5 30日分の処方箋を2枚発行するよう医師に依頼した。

問323 (法規・制度・倫理)

我が国の医療保険制度において、向精神薬以外にも、長期投与に注意を要するために、処方日数の上限が設けられている医薬品はどれか。2つ選べ。

- 1 麻薬
- 2 特定生物由来製品
- 3 放射性医薬品
- 4 毒薬・劇薬に指定されている医薬品
- 5 薬価基準収載の翌月の初日から1年未満の新医薬品

<解答> 1、3 (問322)

<解答> 1、5 (問323)

横断的なアプローチ(法規・制度・倫理と実務をつなげる)

前述したように、法規と実務の壁はあっていないようなものです。今回紹介した設問以外にも例えば、**コミュニケーション技法(問い方、座り位置)、倫理的規範(〇〇宣言など)、麻薬や向精神薬などの管理薬の取扱い(保管、事故、廃棄など)等が法規・制度・倫理または実務の双方で同様の内容が出題されています。**

法規を学べば実務も修得でき、実務を学べば法規を修得できるので、ぜひ相乗効果があることを念頭に学修を進めてください。

なお、双方の学修をする際には、「法規とは最低限守るべきもの」として線引きをし、「実務は現場・患者の目線にたって運用されるもの」と考えてもらうと、稀に遭遇する「法規では〇〇だが、実務的には□□」という内容にも納得できるが増えると思いますので、意識してみると良いでしょう。

「薬学生」  
必見

薬事法規・制度の内容を実務と紐付けられる!

薬局実務実習に行く前に 知っておきたい **法律知識**

[著者] 白神 誠 A5判/203頁/定価 2,000円+税



薬学生が実務実習に向けて知っておくべき法律知識を会話形式でわかりやすく解説。実務の内容と関連する法規・制度を結びつけた学習ができる一冊。

POINT

- 実務に沿った会話形式で解説することで、その場面を思い描きながら学べる。
- 項目ごとに要点をまとめた「Key points」を記載し、知識の整理ができる。

◎実務実習(事前学習)用のテキストとしてはもちろん、国試対策にも役立ちます。

【もくじ】

- 第1章 はじめに
- 第2章 薬局実習その1
- 第3章 薬局実習その2
- 第4章 薬局実習が終わって
- 第5章 病院実習
- 第6章 実習が終わって



詳細・購入はこちら

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。